

## 連携について(産婦人科用)

A-Q1. この症例は貴科初診でしょうか、紹介受診でしょうか。

1. 当科初診である
2. 当病院の他科より紹介受診となった。
3. 他病院の産婦人科より紹介受診となった。
4. 他病院の他科より紹介受診となった。

A-Q2. 紹介受診の場合、どこの診療科から紹介を受けましたか？

1. 産婦人科
2. 泌尿器科
3. 外科
4. 内科
5. その他

A-Q3. 今回の稀少部位子宮内膜症については、既に前医で診断されていたでしょうか？

1. 当科で稀少部位子宮内膜症の診断となった。
2. 紹介受診の時点で稀少部位子宮内膜症と診断もしくは疑われていた。

A-Q4. 前医で稀少部位子宮内膜症と診断された場合に、どのように診断されましたか。

1. 前医で手術を施行しており、子宮内膜症の診断となった。
2. 前医で生検を行っており、子宮内膜症の診断となった。
3. 前医で内視鏡、MRI、CTなどの画像検査で子宮内膜症の診断となった。
4. 前医で症状や薬物療法などの効果から、子宮内膜症の可能性が高いとされた。
5. その他 ( )
6. 不明

A-Q5. 貴科で現在も follow 中ですか。

1. follow 中である。⇒ Q6-1 へ
2. follow 中ではない。⇒ Q7 へ

A-Q6-1. 貴科で follow 中の場合に、泌尿器科との連携がありますか。

1. 泌尿器科と連携をしている。⇒ Q6-2 へ
2. 今後、泌尿器科と連携していく予定である。⇒ Q6-2 へ
3. 連携はしていない。産婦人科だけで follow 中である。⇒ 終了

A-Q6-2. 連携先に関する質問です。連携している泌尿器科は、貴院でしょうか、その他の病院でしょうか。

1. 連携している泌尿器科は当院内である。⇒ 終了
2. 連携している泌尿器科は他院である。⇒ 終了

A-Q7. Follow 中でない場合、稀少部位子宮内膜症について消化器外科との連携、紹介をしていますか。

1. 他院の産婦人科に紹介をした。泌尿器科にも紹介をした。
2. 他院の産婦人科に紹介した。泌尿器科との連携はしていない。
3. 産婦人科は終診とし、泌尿器科を紹介した。
4. 終診とした。泌尿器科との連携はしていない。

回答日	年 月 日	病院名	
診療科	1.呼吸器外科、胸部外科 2.産婦人科		回答者名
連絡先	email: @	FAX:	TEL:
症例番号	C-	各施設で1から順に番号を付けてください。	

## 胸腔子宮内膜症第2次調査表

Q1. 胸腔子宮内膜症の種類	1. 月経随伴性気胸 2. 月経随伴性血胸 3. 月経随伴性喀血 4. その他 ( )		
Q2. 診断した診療科	1. 内科 2. 外科 3. 産婦人科 4. その他の診療科 ( )		
Q3. 胸腔子宮内膜症の診断(複数回答可)	1. 症状、発症時期より推定 2. ホルモン療法が奏功していることから推定 3. 胸部Xpで診断 4. CTで診断 5. MRIで診断 6. 検査目的の胸腔鏡により診断 7. 手術により病変を同定 8. 術後病理によって診断確定		
Q4. 発症部位 気胸、血胸(Xp,CTなど)、喀血、結節(CT、MRIなど)	1. 右 2. 左 3. 両側		
Q5. 初発症状	1. 胸痛 2. 背部痛 3. 呼吸困難 4. 血痰 5. その他 ( )		
Q6. 診断までの発症回数	回		
Q6. 診断時	年齢	歳	出産歴
	結婚	1. 未婚 2. 既婚	身長
	喫煙	1. 無 2. 以前吸っていたが、現在は吸っていない 3. 現在吸っている	
	既往歴		
	家族歴		
Q7. 月経歴	初経	歳	月経周期
	月経困難症	1. 有 2. 無 3. 不明	日周期
閉経			
歳, 未			
以下は骨盤内子宮内膜症、手術歴についての質問です。			
Q8 骨盤子宮内膜症の診断	1. 有 2. 無	骨盤子宮内膜症診断時年齢	歳
Q8-1 骨盤子宮内膜症の病変部位	1. 子宮内膜症性卵巣のう胞 右( ) 左( ) 両側( ) 不明( ) 2. 腹膜病変 3. 子宮腺筋症 4. 腸管子宮内膜症 5. 膀胱子宮内膜症 6. その他の子宮内膜症 ( )		
Q9 手術歴	Q9-1 婦人科手術歴	1. 流産手術 2. 帝王切開術 3. 卵巣嚢胞摘出術	
	4. 片側付属器切除術 5. 両側付属器切除術 6. その他 ( )		
	Q9-2 その他の手術歴		

Q10 治療について	これまで、行われてきた治療につきまして教えてください。	
Q10-1 手術療法	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q10-2
		「2.なし」→ Q10-3(手術を行っていない症例)へ
Q10-2 手術前にホルモン療法を行ったことがある	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q11(ホルモン療法)とQ12(手術療法)へ
		「2.なし」→ Q12 (手術症例)へ
Q10-3 手術を行っていない症例	1. ホルモン療法のみ 2. 胸膜癒着療法のみ	
	3. ホルモン療法+胸膜癒着療法 4. 経過観察	
	5. その他の治療 ( )	
「1. ホルモン療法のみ」→ Q11へ 「2. 胸膜癒着療法のみ」→ Q10-4へ		
「3. ホルモン療法+胸膜癒着療法」→ Q10-4とQ11へ		
「4. 経過観察」→ 連携について(6ページ目)の質問へ 「その他の治療」→ Q10-5へ		
Q10-4「胸膜癒着」の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q10-5「その他の治療」の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q10をまとめますと以下のようになります。

なお、データの解析上、Q10には、答えていただきますようお願い申し上げます。

# 手術未施行例でホルモン療法を行っている症例 → Q11のホルモン療法にお答えください。

# 手術施行例の場合

術前にホルモン療法を行っている。→ 「Q11ホルモン療法」と「Q12手術療法」にお答えください。

術前にホルモン療法を行っていない。→ 「Q12手術療法」にお答えください。

Q9 ホルモン療法について	
これまで、「手術前に行ったホルモン療法」、もしくは、「手術を行っていない症例のホルモン療法」について教えてください。	
Q11-1 ホルモン療法(初回)	ホルモン療法についての質問です。
Q11-1-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-1-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-1-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明であったが副作用のために中止した。
Q11-2 ホルモン療法(変更)	変更後のホルモン療法についての質問です。
Q11-2-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-2-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-2-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明であったが副作用のために中止した。
Q11-3 ホルモン療法(再変更)	再変更後のホルモン療法についての質問です。
Q11-3-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-3-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-3-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明であったが副作用のために中止した。
Q11-4 ホルモン療法(再々変更)	再々変更後のホルモン療法についての質問です。
Q11-4-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-4-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-4-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは無効であったが副作用のために中止した。

Q12 手術療法		
<p>これまでに手術を行った症例に対するアンケートです。次ページには術後ホルモン療法についての質問もございます。</p>		
Q12-1 術式	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 完全胸腔鏡下横隔膜切除術</li> <li>2. 完全胸腔鏡下横隔膜縫縮術</li> <li>3. 完全胸腔鏡下横隔膜切除術+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術)</li> <li>4. 完全胸腔鏡下肺部分切除</li> <li>5. 完全胸腔鏡下肺部分切除術+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術)</li> <li>6. 開胸(小開胸)横隔膜切除</li> <li>7. 開胸(小開胸)横隔膜縫縮術</li> <li>8. 開胸(小開胸)横隔膜切除+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術)</li> <li>9. 開胸(小開胸)肺部分切除</li> <li>10. 開胸(小開胸)肺部分切除+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術)</li> <li>11. 胸膜剥離術(または胸膜癒着術)</li> <li>12. その他( )</li> </ol>	
Q12-2 手術時年齢	歳	
Q12-3 術中に子宮内膜症病変の同定((術中に肉眼的に子宮内膜症病変を同定できましたでしょうか。))	1. あり 2. なし 3. 不明	
Q12-4 内膜症病変の部位	1. 横隔膜 2. 右肺 3. 左肺 4. 両肺 5. 胸壁 6. その他( )	
Q12-5 病理検査	1. あり 2. なし	1を選んだ場合にはQ12-6に教えてください。
Q12-6 病理検査にて	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内膜症組織(腺組織または間質組織)が確認された。</li> <li>2. 内膜症組織(腺組織または間質組織)は確認されなかった。</li> <li>3. その他 ( )</li> </ol>	
Q12-7 術後follow期間	カ月	
Q12-8 術後療法(再発前に再発予防のために始めたホルモン療法)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無</li> <li>2. 低用量ピル</li> <li>3. 中用量ピル</li> <li>4. ディナゲスト®</li> <li>5. ダナゾール</li> <li>6. GnRH アゴニスト</li> <li>7. アロマターゼ阻害剤</li> <li>8. その他( )</li> </ol>	
Q12-9 術後再発の有無	1. あり 2. なし	
Q12-10 再発後の治療	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経過観察</li> <li>2. 手術(術式: )</li> <li>3. ホルモン療法</li> <li>4. その他( )</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3を選択→ 次ページの Q12-11へ</div>	

Q12-11 術後再発後のホルモン療法について		
Q12-11 術後再発後ホルモン療法(初回)		
Q12-11-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-11-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-11-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q12-12 術後再発後ホルモン療法(変更)		
Q12-12-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-12-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-12-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q12-13 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q12-13-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-13-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-13-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q12-14 術後再発後ホルモン療法(再々変更)		
Q12-14-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-14-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-14-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

連携について（呼吸器外科、胸部外科用）

A-Q1. この症例は貴科初診でしょうか、紹介受診でしょうか。

1. 当科初診である
2. 当病院の他科より紹介受診となった。
3. 他病院の同じ診療科より紹介受診となった。
4. 他病院の他の診療科より紹介受診となった。

A-Q2. 紹介受診の場合、どこの診療科から紹介を受けましたか？

1. 産婦人科
2. 呼吸器外科
3. 呼吸器内科
4. その他（ ）

A-Q3. 今回の稀少部位子宮内膜症については、既に前医で診断されていたでしょうか？

1. 当科で稀少部位子宮内膜症の診断となった。
2. 紹介受診の時点で稀少部位子宮内膜症と診断もしくは疑われていた。

A-Q4. 前医で稀少部位子宮内膜症と診断された場合に、どのように診断されましたか。

1. 前医で手術を施行しており、子宮内膜症の診断となった。
2. 前医で生検を行っており、子宮内膜症の診断となった。
3. 前医で内視鏡、MRI、CTなどの画像検査で子宮内膜症の診断となった。
4. 前医で症状や薬物療法などの効果から、子宮内膜症の可能性が高いとされた。
5. その他（ ）
6. 不明

A-Q5. 貴科で現在も follow 中ですか。

1. follow 中である。 ⇒ A-Q6-1 へ
2. follow 中ではない。 ⇒ A-Q7-1 へ

A-Q6-1. 貴科で follow 中の場合に、産婦人科との連携がありますか。

1. 産婦人科と連携をしている。
2. 今後、産婦人科と連携していく予定である。
3. 連携はしていない。当科だけで follow 中である。

A-Q6-2. 連携先に関する質問です。連携している産婦人科は、貴院でしょうか、その他の病院でしょうか。

1. 連携している産婦人科は当院内である。
2. 連携している産婦人科は他院である。



A-Q7-1. Follow 中でない場合、稀少部位子宮内膜症について産婦人科との連携、紹介をしていますか。

1. 産婦人科に紹介をした。
2. 他院の同じ診療科に紹介した。産婦人科との連携はしていない。
3. 終診とした。産婦人科との連携はしていない。

A-Q7-2. 連携先に関する質問です。連携先の産婦人科は、貴院でしょうか、他院でしょうか。

1. 連携先は当院内である。
2. 連携先は他院である。

回答日	年 月 日	病院名	
診療科	1.呼吸器外科、胸部外科 2.産婦人科		回答者名
連絡先	email: @	FAX:	TEL:
症例番号	C-	各施設で1から順に番号を付けてください。	

## 胸腔子宮内膜症第2次調査表

Q1. 胸腔子宮内膜症の種類	1. 月経随伴性気胸 2. 月経随伴性血胸 3. 月経随伴性喀血 4. その他 ( )
----------------	--

Q2. 診断した診療科	1. 内科 2. 外科 3. 産婦人科 4. その他の診療科 ( )
-------------	------------------------------------

Q3. 胸腔子宮内膜症の診断(複数回答可)	1. 症状、発症時期より推定 2. ホルモン療法が奏功していることから推定 3. 胸部Xpで診断 4. CTで診断 5. MRIで診断 6. 検査目的の胸腔鏡により診断 7. 手術により病変を同定 8. 術後病理によって診断確定
-----------------------	---

Q4. 発症部位 気胸、血胸(Xp,CTなど)、喀血、結節(CT、MRIなど)	1. 右 2. 左 3. 両側
---	-----------------

Q5. 初発症状	1. 胸痛 2. 背部痛 3. 呼吸困難 4. 血痰 5. その他 ( )
----------	---------------------------------------

Q6. 診断までの発症回数	回
---------------	---

Q6. 診断時	年齢	歳	出産歴	回	
	結婚	1. 未婚 2. 既婚	身長	cm	体重 kg
	喫煙	1. 無 2. 以前吸っていたが、現在は吸っていない 3. 現在吸っている			
	既往歴				
	家族歴				

Q7. 月経歴	初経	歳	月経周期	日周期	閉経	歳, 未
	月経困難症	1. 有 2. 無 3. 不明				

以下は骨盤内子宮内膜症、手術歴についての質問です。

Q8 骨盤子宮内膜症の診断	1. 有 2. 無	骨盤子宮内膜症診断時年齢	歳
---------------	-----------	--------------	---

Q8-1 骨盤子宮内膜症の病変部位	1. 子宮内膜症性卵巣のう胞 右( ) 左( ) 両側( ) 不明( ) 2. 腹膜病変 3. 子宮腺筋症 4. 腸管子宮内膜症 5. 膀胱子宮内膜症 6. その他の子宮内膜症 ( )
-------------------	--

Q9 手術歴	Q9-1 婦人科手術歴	1. 流産手術 2. 帝王切開術 3. 卵巣嚢胞摘出術
		4. 片側付属器切除術 5. 両側付属器切除術 6. その他 ( )
	Q9-2 その他の手術歴	

Q10 治療について	これまで、行われてきた治療につきまして教えてください。	
Q10-1 手術療法	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q10-2 「2.なし」→ Q10-3(手術を行っていない症例)へ
Q10-2 手術前にホルモン療法を行ったことがある	1. あり 2. なし	1.あり」→ Q11(ホルモン療法)とQ12(手術療法)へ 「2.なし」→ Q12 (手術症例)へ
Q10-3 手術を行っていない症例	1. ホルモン療法のみ 2. 胸膜癒着療法のみ 3. ホルモン療法+胸膜癒着療法 4. 経過観察 5. その他の治療 ( )	
「1. ホルモン療法のみ」→ Q11へ 「2. 胸膜癒着療法のみ」→ Q10-4へ		
「3. ホルモン療法+胸膜癒着療法」→ Q10-4とQ11へ		
「4. 経過観察」→ 連携について(6ページ目)の質問へ 「その他の治療」→ Q10-5へ		
Q10-4 「胸膜癒着」の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。 3. 有効であったが副作用のために中止した。 4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q10-5 「その他の治療」の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。 3. 有効であったが副作用のために中止した。 4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q10をまとめますと以下のようになります。

なお、データの解析上、Q10には、答えていただきますようお願い申し上げます。

# 手術未施行例でホルモン療法を行っている症例 → Q11のホルモン療法にお答えください。

# 手術施行例の場合

術前にホルモン療法を行っている。→ 「Q11ホルモン療法」と「Q12手術療法」にお答えください。

術前にホルモン療法を行っていない。→ 「Q12手術療法」にお答えください。

Q9 ホルモン療法について	
これまで、「手術前に行ったホルモン療法」、もしくは、「手術を行っていない症例のホルモン療法」について教えてください。	
Q11-1 ホルモン療法(初回)	ホルモン療法についての質問です。
Q11-1-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-1-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-1-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明であったが副作用のために中止した。
Q11-2 ホルモン療法(変更)	変更後のホルモン療法についての質問です。
Q11-2-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-2-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-2-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明であったが副作用のために中止した。
Q11-3 ホルモン療法(再変更)	再変更後のホルモン療法についての質問です。
Q11-3-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-3-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-3-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明であったが副作用のために中止した。
Q11-4 ホルモン療法(再々変更)	再々変更後のホルモン療法についての質問です。
Q11-4-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8. その他( )
Q11-4-2 薬剤投与期間	カ月
Q11-4-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは無効であったが副作用のために中止した。

Q12 手術療法	
これまでに手術を行った症例に対するアンケートです。次ページには術後ホルモン療法についての質問もごさいます。	
Q12-1 術式	1. 完全胸腔鏡下横隔膜切除術 2. 完全胸腔鏡下横隔膜縫縮術 3. 完全胸腔鏡下横隔膜切除術+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術) 4. 完全胸腔鏡下肺部分切除 5. 完全胸腔鏡下肺部分切除術+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術) 6. 開胸(小開胸)横隔膜切除 7. 開胸(小開胸)横隔膜縫縮術 8. 開胸(小開胸)横隔膜切除+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術) 9. 開胸(小開胸)肺部分切除 10. 開胸(小開胸)肺部分切除+胸膜癒着術(または壁側胸膜剥離術) 11. 胸膜剥離術(または胸膜癒着術) 12. その他( )
Q12-2 手術時年齢	歳
Q12-3 術中に子宮内膜症病変の同定((術中に肉眼的に子宮内膜症病変を同定できましたでしょうか。))	1. あり 2. なし 3. 不明
Q12-4 内膜症病変の部位	1. 横隔膜 2. 右肺 3. 左肺 4. 両肺 5. 胸壁 6. その他( )
Q12-5 病理検査	1. あり 2. なし 1を選んだ場合にはQ12-6に教えてください。
Q12-6 病理検査にて	1. 内膜症組織(腺組織または間質組織)が確認された。 2. 内膜症組織(腺組織または間質組織)は確認されなかった。 3. その他( )
Q12-7 術後follow期間	ヵ月
Q12-8 術後療法(再発前に再発予防のために始めたホルモン療法)	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRH アゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8. その他( )
Q12-9 術後再発の有無	1. あり 2. なし
Q12-10 再発後の治療	1. 経過観察 2. 手術(術式: ) 3. ホルモン療法 3を選択→次ページの Q12-11へ 4. その他( )

Q12-11 術後再発後のホルモン療法について		
Q12-11 術後再発後ホルモン療法(初回)		
Q12-11-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-11-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-11-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q12-12 術後再発後ホルモン療法(変更)		
Q12-12-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-12-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-12-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q12-13 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q12-13-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-13-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-13-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q12-14 術後再発後ホルモン療法(再々変更)		
Q12-14-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q12-14-2 薬剤投与期間	カ月	
Q12-14-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

## 連携について(産婦人科用)

A-Q1. この症例は貴科初診でしょうか、紹介受診でしょうか。

1. 当科初診である
2. 当病院の他科より紹介受診となった。
3. 他病院の産婦人科より紹介受診となった。
4. 他病院の他科より紹介受診となった。

A-Q2. 紹介受診の場合、どこの診療科から紹介を受けましたか？

1. 産婦人科
2. 呼吸器外科、胸部外科
3. 呼吸器内科
4. その他  
( )

A-Q3. 今回の稀少部位子宮内膜症については、既に前医で診断されていたでしょうか？

1. 当科で稀少部位子宮内膜症の診断となった。
2. 紹介受診の時点で稀少部位子宮内膜症と診断もしくは疑われていた。

A-Q4. 前医で稀少部位子宮内膜症と診断された場合に、どのように診断されましたか。

1. 前医で手術を施行しており、子宮内膜症の診断となった。
2. 前医で生検を行っており、子宮内膜症の診断となった。
3. 前医で内視鏡、MRI、CTなどの画像検査で子宮内膜症の診断となった。
4. 前医で症状や薬物療法などの効果から、子宮内膜症の可能性が高いとされた。
5. その他 ( )
6. 不明

A-Q5. 貴科で現在も follow 中ですか。

1. follow 中である。⇒ Q6-1 へ
2. follow 中ではない。⇒ Q7 へ

A-Q6-1. 貴科で follow 中の場合に、呼吸器外科、胸部外科との連携がありますか。

1. 呼吸器外科、胸部外科と連携をしている。⇒ Q6-2 へ
2. 今後、呼吸器外科、胸部外科と連携していく予定である。⇒ Q6-2 へ
3. 連携はしていない。産婦人科だけで follow 中である。⇒ 終了

A-Q6-2. 連携先に関する質問です。連携している呼吸器外科、胸部外科は、貴院でしょうか、その他の病院でしょうか。

1. 連携している呼吸器外科、胸部外科は当院内である。⇒ 終了
2. 連携している呼吸器外科、胸部外科は他院である。⇒ 終了

A-Q7. Follow 中でない場合、稀少部位子宮内膜症について呼吸器外科、胸部外科との連携、紹介をしていますか。

1. 他院の産婦人科に紹介をした。呼吸器外科、胸部外科にも紹介をした。
2. 他院の産婦人科に紹介した。呼吸器外科、胸部外科との連携はしていない。
3. 産婦人科は終診とし、呼吸器外科、胸部外科を紹介した。
4. 終診とした。呼吸器外科、胸部外科との連携はしていない。



回答日	年 月 日	病院名	
診療科	1.形成外科 2.産婦人科		回答者名
連絡先	email: @	FAX:	TEL:
症例番号	D-	各施設で1から順に番号を付けてください。	

## 臍部子宮内膜症第2次調査表

Q1. 診断した診療科		1.形成外科 2.皮膚科 3.産婦人科 4.内科 5.外科 6.その他の科( )					
Q2. 診断時	年齢	歳	出産歴	回			
	結婚	1.未婚 2.既婚		身長	cm	体重	kg
	既往歴						
	家族歴						
Q3. 月経歴	初経	歳	月経周期	日周期	閉経	歳, 未	
	月経困難症	1.有 2.無 3.不明					
Q4 手術歴							
Q5-1. 骨盤子宮内膜症の有無			1. あり 2. なし 3. 不明				
Q5-2 骨盤子宮内膜症の合併			1. 卵巣子宮内膜症 2. 腹膜子宮内膜症 3. 子宮腺筋症				
			4. 腸管子宮内膜症 5. その他( )				
Q5-3 骨盤子宮内膜症の手術歴の有無			1. 腹腔鏡下手術 2. 開腹手術 3. なし				
Q6-1. 症状 ... 症状について教えてください	症状	1. ある 2. なし					
	臍部出血	1.ある 2. ない 3. 不明					
	臍部痛	1.ある 2. ない 3. 不明					
	腫瘤感	1.ある 2. ない 3. 不明					
	その他 ( )	1.ある 2. ない 3. 不明					
Q6-2 上記症状 の発症時期	1. 月経周期に関連がある。						
	2. 月経周期に関連がない。 3. 不明						
Q7. 診断 ... 行った検査と 内膜症の所見の有無に ついて教えてください。	肉眼的所見	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
	経腹超音波断層法	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
	CT	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
	MRI	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
	生検	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
	術後病理	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
	その他 ( )	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					

Q8 治療について	これまで行われた治療について教えてください。	
Q8-1 手術療法	1. あり	1を選んだ場合にはQ8-2に進んでください。
	2. なし	2を選んだ場合には、Q8-3に進んでください。
Q8-2 手術前にホルモン療法を行ったことがある。	1. あり	あり → ホルモン療法と手術療法 (Q9とQ10へ)
	2. なし	2. なし → 手術療法 (Q10へ)
Q8-3 治療法について (手術未施行の症例)	1. ホルモン療法のみ	
	2. 経過観察	
	3. その他の治療 ( )	
「1. ホルモン療法のみ」を選択 → ホルモン療法へ Q9へ		
「2. 経過観察」を選択 → 連携(6ページ以降)についての質問へ		
「3. その他の治療法」 → その他の治療の効果について Q8-4へ		
Q8-4 「その他の治療」 の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q8をまとめますと以下ようになります。

なお、データの解析上、Q8には、答えていただきますようお願い申し上げます。

# 手術未施行例でホルモン療法を行っている症例 → Q9のホルモン療法に進んでください。

# 手術施行例の場合

術前にホルモン療法を行っている。→ 「Q9ホルモン療法」と「Q10手術療法」にお答えください。

術前にホルモン療法を行っていない。→ 「Q10手術療法」に進んでください。

**Q9 ホルモン療法について**

これまで、手術前に行ったホルモン療法、もしくは手術を行っていない症例のホルモン療法について教えてください。

Q9-1 ホルモン療法(初回)	
Q9-1-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他 ( )
Q9-1-2 薬剤投与期間	カ月
Q9-1-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q9-2 ホルモン療法(変更)	
Q9-2-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他 ( )
Q9-2-2 薬剤投与期間	カ月
Q9-2-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q9-3 ホルモン療法(再変更)	
Q9-3-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他 ( )
Q9-3-2 薬剤投与期間	カ月
Q9-3-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q9-4 ホルモン療法(再々変更)	
Q9-4-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他 ( )
Q9-4-2 薬剤投与期間	カ月
Q9-4-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q10 手術療法			
これまでに手術を行った症例に対するアンケートです。術後ホルモン療法についての質問もごさいます。			
Q10-1 術式	1. 局所切除(腹膜まで到達しない)術 2. 局所切除(腹膜まで到達しない)術 + 臍形成術 3. 局所切除(腹膜含む)手術 4. 局所切除(腹膜含む)手術 + 臍形成術 5. その他( )		
Q10-2 手術時年齢	歳		
Q10-3 術中に子宮内膜症病変の同定(術中に肉眼的に子宮内膜症を疑われる病変を同定できましたでしょうか。)	1. あり 2. なし 3. 不明		
Q10-4 病理検査	1. あり 2. なし	1を選んだ場合にはQ10-5に教えてください。	
Q10-5 病理検査にて	1. 内膜症組織が確認された。 2. 内膜症組織は確認されなかった。 3. その他 ( )		
Q10-6 術後follow期間	ヶ月		
Q10-7 術後療法(再発前に再発予防的に始めた治療)	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8. その他( )		
10-8 術後再発の有無	1. あり 2. なし	術後再発時	術後 ヶ月
Q10-9 再発後の治療	1. 経過観察 2. 手術(術式: ) 3. ホルモン療法 3を選択 → 術後ホルモン療法(Q10-10)へ 4. その他 ( )		

### 術後再発後のホルモン療法について

術後に子宮内膜症を再発した症例のホルモン療法について教えてください。

Q10-10 術後再発後のホルモン療法(初回)			
Q10-10-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8. その他 ( )		
Q10-10-2 薬剤投与期間	ヵ月		
Q10-10-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。 3. 有効であったが副作用のために中止した。 4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。		